

平成 30 年 6 月 20 日現在

機関番号：17701

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2017

課題番号：26670333

研究課題名(和文) 母子保健および少子化対策は、いかなるソーシャルキャピタルを活用すべきか

研究課題名(英文) How can we utilize social capital in maternal and child health and countermeasures to the declining birthrate?

研究代表者

上床 太心(UWATOKO, Futoshi)

鹿児島大学・医歯学域医学系・助教

研究者番号：50709350

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：地縁型ソーシャルキャピタルが高い地域では、合計特殊出生率が高く、一部の母子保健指標が低調な傾向がみられた。個々の母親の豊富なソーシャルネットワークや地域社会へのポジティブな認知は、理想子ども数や予定子ども数が多いこととは関連がみられたが、低調な母子保健行動とは関連がみられなかった。高い合計特殊出生率と低調な母子保健指標には、低い初産年齢等の共通の要因が推察されたが、ソーシャルキャピタルの影響についてはさらなる検討が必要である。

研究成果の概要(英文)：In regions with high bonding social capital, we observed tendencies of high total fertility rates and low evaluation in some mother and child health indices. Mothers' rich social networks and positive recognitions to local communities were positively associated with the ideal number of children and expected number of children, but not with poor maternal and child health behaviors. Common factors including a younger age at first birth were inferred for a high total fertility rate and low maternal and child health indicators. Further investigation is necessary to evaluate the influence of social capital on these indicators.

研究分野：公衆衛生学

キーワード：ソーシャル・キャピタル ソーシャル・ネットワーク 親子保健 母子保健 少子化対策 理想子ども数 予定子ども数

1. 研究開始当初の背景

少子化対策が強化される中、わが国の市区町村別合計特殊出生率で上位を占める奄美群島 A 島は子宝の島として知られ、国内外から多くの視察者が訪れる。当該地の高出生の要因については、豊かなソーシャルキャピタル(以下、SC)やソーシャルネットワーク(以下、SN)が大きな要因とも語られてきたが、十分な研究はなされておらず明らかではない。

また同地を含むわが国の高出生地域では、いくつかの母子保健指標が低調な傾向にある。一部ではこれがSCやSNの負の側面である可能性も語られているが、先行研究は全く明らかでない。

2. 研究の目的

(1) 合計特殊出生率を含む各地の母子保健指標と、種々のSCとの関連を明らかにする。
 (2) 母子保健関連事象(母親の理想子ども数、予定子ども数、妊娠届出時期、児のう歯、定期予防接種状況等)と、母親のSNや周辺要素との関連を明らかにする。

3. 研究の方法

<1. 母子保健指標とSC関連要素についての地域相関研究> 「平成20年～平成24年人口動態保健所・市区町村別統計(厚生労働省)」「平成24年度地域保健・健康増進事業報告(厚生労働省)」「地域別のソーシャルキャピタルに関する指数2007年(日本総合研究所)」等のデータを統合し、地域相関研究を実施した。

<研究2. 高出生地域における質的研究> 国内で合計特殊出生率が上位である鹿児島県A島居住または出身の女性30名、および同島で母子保健活動に従事する専門職6名を対象に聞き取り調査を実施した。その内容を質的・帰納的に分析した。

<研究3. 高出生地域と対照地域における量的研究> 前段の研究2の結果に基づき調査票を作成し、小規模のFeasibility研究を経て、鹿児島県内4地域で量的研究を実施した。対象地は、鹿児島県A島(合計特殊出生率/高位、乳幼児健診受診率・う歯有病率等の母子保健指標/低位)、同県B島(同:高位、同:高位)、同県C市(同/中位、同/中位)、同県D市(同/低位、同/高位)。各地域の調査期間の1歳6月および3歳児健診の全受診児と保護者を対象に、調査票に基づき自記および調査員による聞き取り調査を実施した。

4. 研究成果

<1. 母子保健指標とSC関連要素についての地域相関研究> 合計特殊出生率に対して、死亡率(全年齢)、婚姻率、離婚率、1歳6月/3歳児健診受診率、3歳児平均う歯数/う

歯有病率、自殺/不慮の事故の標準化死亡比(いずれも全年齢)は正の相関を、人口死亡率、妊娠11週以内届出割合は負の相関を認めた(市町村単位で解析)。

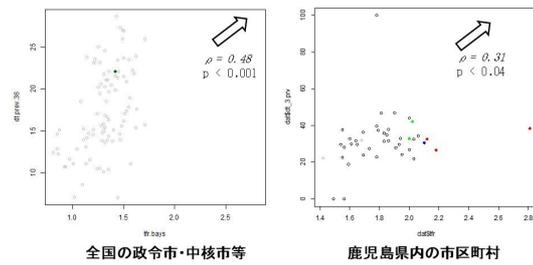


図1. 合計特殊出生率(横軸)と3歳児う歯有病率(縦軸)

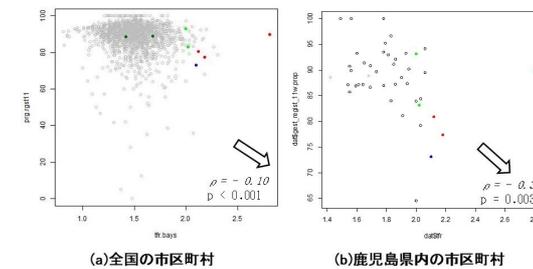


図2. 合計特殊出生率(横軸)と妊娠届出11週以内割合(縦軸)

また都道府県単位の解析では、地縁型SCに関連の深い項目に対して、合計特殊出生率、1歳6月/3歳児健診受診率が正の相関を、妊娠11週以内届出割合が負の相関を示した。

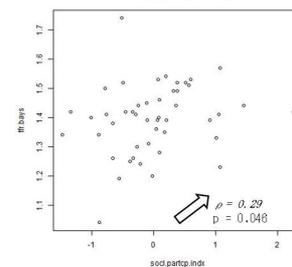


図3. 社会参加指数(横軸)と合計特殊出生率(縦軸)
(全国の都道府県)

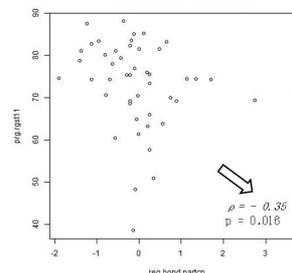


図4. 地縁的活動参加指数(横軸)と妊娠11週以内届出割合(縦軸)
(全国の都道府県)

<研究2. 高出生地域における質的研究> 高出生の要因として「子が何よりの財産という価値観」「出産や育児への不安に対する楽観性」「強固な相互扶助」「寛容な地域性」「若

年出産傾向」等が抽出された。一方、他地域比べて相対的に低調な母子保健指標(妊娠11週以内届出割合、1歳6月/3歳児健診受診率、1歳6月/3歳児平均う歯数/う歯有病率)の要因として、「情報・知識の質・量・流通等の問題」「従来の育児の成功体験と楽観性」「保健サービスへのアクセスや信頼感の問題」等が抽出された。これらは保護者や家族の特性のみならず地域の強い影響が観察され、強固な地縁型SCを有する地域の正負両面がうかがわれた。

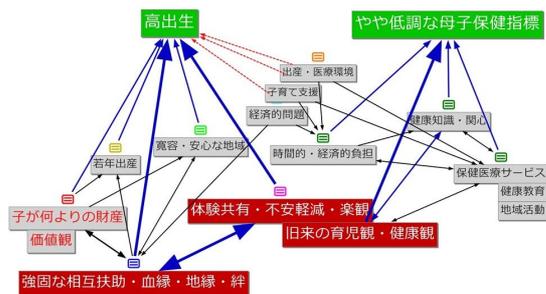


図5. A島における高出生と低調な母子保健指標の背景

<研究 3.高出生地域と対照地域における量的研究> 全対象 1602 件中、1556 件(97.1%)から回答を得た。うち母親が回答した 1,526 件について地域をマクロレベルとしたマルチレベル解析を実施。母親の「理想子ども数」の増加は「初産年齢が若い」「母の兄弟数が多い」「ソーシャルネットワークが豊富」「地域をポジティブに認知」「楽観的」「ポジティブ志向」等と関連。「予定子ども数」の増加は「理想ことも数が多い」「初産年齢が若い」「就業時間が短い」「世話を頼める人数が多い」「ポジティブ志向」等と関連していた。

目的変数	理想子ども数		予定子ども数	
	調整変数	なし	なし	理想数 母年齢 初産年齢
理想の子ども数				
母の年齢		\	n.s.	/
母の初産年齢		\	\	\
母のきょうだい数		/	/	n.s.
母の学歴		n.s.	n.s.	\
母の就業状況	有無	n.s.	n.s.	n.s.
	週就業時間	n.s.	n.s.	n.s.
母のSN	急に世話を頼める人数	/	/	/
	サークル・団体等所属	/	/	n.s.
母の地域社会に対する認知	相互信頼	/	/	n.s.
	互酬性	/	/	n.s.
	子どもへの寛容性	n.s.	n.s.	n.s.
	進取性	/	/	n.s.
母の心理的要因	良いことの方がおきる*1	n.s.	/	n.s.
	思い通りに行くと思わない*2	n.s.	n.s.	n.s.
	人生に満足している*3	/	/	/
	困難に良い面あり*4	n.s.	/	n.s.
	平静をすぐ取り戻す*5	/	/	/
	困難は徐々によくなる*6	n.s.	n.s.	n.s.

*1-2 楽観性尺度(*2は逆転項目)、*3 人生満足度尺度、*4-6 ポジティブ志向尺度 の項目の一部

図6. 理想子ども数・予定子ども数と関連要因

一方、低調な母子保健指標は、「児のきょうだい順位が大きい」「母の初産年齢が若い」「母の学歴が低い」「母のソーシャルネットワークが少ない」等と関連していた。

目的変数	11週超届出		3歳う歯有		4種混合第1期3回目1歳時未接種		
	調整変数	なし	兄弟順位 母年齢 初産年齢	なし	兄弟順位 母年齢 初産年齢	なし	兄弟順位 母年齢 初産年齢
児のきょうだい数		/	/	/	/	/	/
児のきょうだい順位		/	/	/	/	/	/
母の年齢		\	n.s.	\	n.s.	\	n.s.
母の初産年齢		\	\	\	\	\	\
母の学歴		\	n.s.	\	n.s.	\	n.s.
母の就業状況	有無	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.
	週就業時間	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.
母のSN	急に世話を頼める人数	n.s.	/	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.
	サークル・団体等所属	n.s.	\	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.
	自身で入手	n.s.	n.s.	\	\	\	n.s.
健康情報の入手先	同世代から入手	n.s.	n.s.	\	n.s.	n.s.	n.s.
	祖父母世代から入手	n.s.	n.s.	\	n.s.	n.s.	n.s.
	専門職から入手	n.s.	n.s.	\	n.s.	n.s.	n.s.
毎日仕上げ磨き実施		\	\	\	\	\	\
母の地域社会に対する認知	相互信頼	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	\	\
	互酬性	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.
	子どもへの寛容性	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	\	\
	進取性	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.
母の心理的要因	良いことの方がおきる*1	\	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.
	思い通りに行くと思わない*2	/	n.s.	n.s.	n.s.	/	n.s.
	人生に満足している*3	n.s.	n.s.	\	\	\	n.s.
	困難に良い面あり*4	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.
	平静をすぐ取り戻す*5	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.
	困難は徐々によくなる*6	n.s.	n.s.	\	n.s.	n.s.	n.s.

*1-2 楽観性尺度(*2は逆転項目)、*3 人生満足度尺度、*4-6 ポジティブ志向尺度 の項目の一部

図7. 低調な母子保健指標と関連する要因

<総括> 地縁型 SC が高い地域では、合計特殊出生率が高く、一部の母子保健指標が低調な傾向がみられた。個々の母親の豊富なソーシャルネットワークや地域社会へのポジティブな認知は、理想子ども数や予定子ども数が多いこととは関連がみられたが、低調な母子保健行動とは関連がみられなかった。高い合計特殊出生率と低調な母子保健指標には、低い初産年齢等の共通の要因が推察されたが、SCの影響についてはさらなる検討が必要である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計2件)

上床太心、郡山千早、秋葉澄伯、強固な結合型ソーシャル・キャピタルを有すると推認される某地の母子保健指標の背景、第74回日本公衆衛生学会、2015年
上床太心、郡山千早、秋葉澄伯、母親の理想・予定子供数とソーシャルキャピタル認知やソーシャルネットワークとの関連、第75回日本公衆衛生学会、2016年

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）
取得状況（計0件）

〔その他〕

特記事項なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

上床 太心 (UWATOKO Futoshi)
鹿児島大学・大学院医歯学総合研究科・助教
研究者番号：50709350

(2) 研究分担者

秋葉 澄伯 (AKIBA Suminori)
鹿児島大学・大学院医歯学総合研究科・客員研究員
研究者番号：50145554

郡山 千早 (KORIYAMA Chihaya)
鹿児島大学・大学院医歯学総合研究科・教授
研究者番号：30274814

(3) 連携研究者 なし

(4) 研究協力者 なし